

令和4年度地元産業界等との地域の課題解決に向けた連携事業

札幌国際大学	①	i. 連携している地元産業界等の組織名称	北海道瀬棚郡今金町
		ii. 当該連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標	連携協定を結ぶ今金町は、今金男爵等多くの農産物を生産し、美しい自然環境や、ピリカ遺跡等の歴史的に価値ある場所を数多く有している。人口は、平成31年3月末現在で5,228人であり、10年間で約900人余りが減少している。また、老年人口比率(高齢化率)も増加しており、平成27年には37.3%となり、北海道、全国を上回る水準である。更に、令和27年には50%を超えることも予測されており、人口減少と少子高齢化は不可避な課題となっている。また、令和2年に実施した町民対象の「まちづくりアンケート調査」によると、「地域医療」に対する不満が最も高く、次いで「商業振興」、「雇用対策」となっている。一方、町民が期待する政策については、「福祉、医療の充実」が最も高く、重点的に取り組みを進めているところである。そこで、本学が有する健康・スポーツに関する事業ノウハウを活用したスポーツや健康運動等のプログラムを提供し、町民の健康増進・介護予防等に資することを目標とする。なお、年度初めに実施計画を今金町と協議し、年度末には、事業評価の協議と報告書の作成を行った。
		iii. iiの課題の解決に向けて実施する取組みの内容	札幌国際大学では、令和2年度より中期計画に基づき、スポーツクラブの設立準備を行い、本年4月、「SIUSスポーツクラブ」として、スタートをきった。そこで本事業では、今金町の地域課題の解決に向けて、大学が有するSIUSスポーツクラブの資源や機能を活用し、以下の事業をアウトリーチする。 ①シニア対象事業のアウトリーチ 昨年度、今金プロジェクトにおいて制作した「ノルディックウォーク」の解説動画を活用し、健康の維持・増進に貢献するノルディックウォーキング事業のアウトリーチを行う。 ②ジュニア対象事業のアウトリーチ 昨年度、今金プロジェクトにおいて制作した「いまかねスマイルダンス」の解説動画を活用し、今金町認定こども園において、スマイルダンスの指導により身体を動かすことの楽しさを体感させるジュニア対象事業のアウトリーチを行う。 ③その他のスポーツクラブ機能のアウトリーチ スポーツクラブが有する機能でアウトリーチできる分野・領域の検討を行う。
	②	i. 連携している地元産業界等の組織名称	札幌市清田区
		ii. 当該連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標	当該連携事業における目標は、人材による地域の活性化である。人材の“地産地消”とは、地元にある様々なマンパワーを有形、無形の形で地域の活性化に活用し、地元でお金が回る仕組みを作るという活動を象徴化した言葉である。このことは、食の地産地消と同様に安心、安全だけでなく、地域の活性化、コミュニティの形成に貢献するという仮説を立て、それに向けての活動目標を立てた。 まず、昨年度までの研究活動を、「集会的記憶」という概念から考察し論文にまとめた。これは「地域の魅力」づくりについて、清田区の事例を分析した評論論文として一定の成果が出ていることをまとめたものであり、今年度の取組の足がかりとなっている。 この成果を足がかりに論文中で展開した理論を裏付けるフィールドワークを観光学部のゼミ活動等を通して行い、将来的にはメタバース空間でその効果を実証することを念頭に置き、今年度は「きよフェス」という音楽フェスのプロモーションを通して、効果的な広報の方法や効果測定の方法について、フィールドワークを実施する。
		iii. iiの課題の解決に向けて実施する取組みの内容	主に観光学部の3年生のフィールドワーク(ゼミ活動)として実施されるこの活動は、以下の活動で成り立っている。 ①プロモーション:いかにして人を集め、地元も魅力を発信していくか。(広報) ②来場者へのホスピタリティ:来場した方々が心地良く楽しみ、地元に対する理解と愛好する心情を醸成するためにどのような仕掛けが有効かを考える。 ③清田区との共同:両者にとってWin-Winとなる活動でなければ、包括連携協定による奨励研究は継続していかない。したがって、学生のアイデアを可能な限り取り入れ、それをサポートするゼミナール活動という形式が最も最適であると判断した。 ④デジタルサイネージやSNSといった最新の広報ツールの活用:札幌市地下歩行空間のサイネージの動画作成やInstagramのコンテンツの作成は全て学生が担当する。 ⑤客観的エビデンス収集の工夫:アンケート項目を事前に吟味し、回収率を上げるためにノベルティグッズ(缶バッジ)を学生が製作する。

札幌国際大学短期大学部	i. 連携している地元産業界等の組織名称	札幌市清田区
	ii. 当該連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標	<p>「地域の食と音楽によるまちづくり」という理念を共有し、「きよフェス&amp;きよたマルシェ」等の事業を通して互恵関係が醸成されてきた短期大学と清田区であったが、今年年度は、「食」に関する部分を主にになっていた総合生活キャリア学科のみの活動となっている。</p> <p>①区で募集されるボランティアの機会を活用し、取り組みにかかわることで、区の現状や課題を知り、できることを考える。</p> <p>②食に関する様々な取り組みを行っている清田区の企業と協力し、食育や社会貢献に取り組む。</p>
	iii. iiの課題の解決に向けて実施する取り組みの内容	<p>①11/6(日)に開催予定のおしごとっこフェスにボランティア学生を派遣、そのために事前説明会、実施後事後の意見交流会を予定。</p> <p>②食育プロジェクトの活動の中で、6月の清麗祭にて札幌マドレーヌ本舗マドマドレ(株式会社HYK運営)の規格外野菜を使用したマドレーヌを販売し、利益のすべてを清田区に寄付した。</p>